

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の基本理念である「老いても、障害を持って当たり前前に自分らしく普通に暮らしたい」という利用者の思いや家族様の気持ちを大事にする為に職員で理念をつくりあげています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝事務所に掲げている理念を唱和し職員間で理念の共有を図っている。実施として地域交流の目的でデイへの参加、日々の買い物ドライブ、散歩、クリーンデイへの参加等をおこなっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には家族会(年3回開催)、園便り発行、運営推進会議では区長、婦人会代表、民生委員に入ってもらい琢次ビデオ映写等を使い説明を実施している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は、隣近所との付き合いを大事にする為、地区に設置しているダストボックスの中や周囲の清掃を利用者と職員と一緒にしたり、買い物に行った時は利用者を全員店内に連れてゆき、職員も利用者も挨拶をおこない近所とのつきあいや話かけの機会作りに取り組んでいる。	<input type="radio"/> 散歩に職員と共に行き近隣の方との話しかけの機会を増やしていく。また、毎週水曜日には「音楽会」のイベントを行い、隣近所の人に気軽に立ち寄ってもらえるような行事も取り組んでいる。今後、もっと部落内の方や隣近所の方々との交流を深めていゆきたいので区長や施設長より紹介声かけをもらい地域との付き合いを広げてゆきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員全員が地域の方々との挨拶や接触に心がけている。ドライブ、散歩、買い物時の和やかな雰囲気、子どもクラブとの七夕会、お祭りへの誘いかけ、餅つき時の餅配り等	<input type="radio"/> 職員全員、もっと地域内の散歩の機会を多くして行きたい。また散歩に行く時には近所との顔なじみになるよう挨拶、声かけをして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者や職員は、クリーンデーに参加したり、ゴミ箱清掃をしたり、地域の高齢者や地域の方々と協力して取り組んでいる。認知症介護についての講座依頼を受け地域の介護者に話をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をカンファレンスにて職員全体で討議し合い理解して、業務の具体的な改善に向けて取り組んでいる。	○	毎年カンファレンスにて自己評価を行うが、理解が全職員に浸透出来ず毎年苦慮する出来事である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進委員会を開催し、ビデオや資料で取り組みを報告し、そこで出た意見を職員間で意識し合いサービスの向上に活かしている。	○	区長さん、婦人会、家族からの質問、意見が多く一時間以上かかる会議である。話題から園の姿の反省もさせられる。地区の班長さんにもメンバーに入ってもらいたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の介護者教室に講師として積極的に出張して介護の理解と実践に努めている。また地域の子供クラブやボランティアを招いたり、同地区のお坊さんの法話を皆で聞いたり、お墓参りをしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全体勉強会で成年後見制度について話してもらったり、ケアマネ研修で勉強の機会を設けてもらった。	○	法人全体の勉強会の内容に毎年取り組んで行こうと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は法人全体での勉強会で高齢者虐待防止関連法の虐待の定義等の知識を深め日々虐待防止に努めている。また、職員の利用者に対する言葉による虐待(心理的虐待)が起こらぬように機会ある事に注意していきたい。	○	年に一回法人全体の勉強会の内容に必ず盛り込んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、規約説明書を読み上げ、料金の内訳等を一つ一つ確認してもらいながら理解と納得をしてもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の心理を十分考慮し、意見や不満、苦情があった場合は職員全員で共有し、話し合い、家族と個々に面会時、家族会にて話合っている。面会時には声かけしやすい雰囲気作りを心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回は個々の写真を入れた「園だより」を送付している。健康状態の変化があった場合は、すぐに電話をし、家族の意見を尊重している。金銭管理も毎月、領収書と出納帳を送付している。	○ ビデオ等にて日常生活を撮り、定期的に見せていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、意見、不満、苦情が言いやすいように、職員から家族に話しかける環境を作っている。話を聞いた職員は全員に共有し、運営に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回は全体勉強会、カンファレンスがあり、(緊急時はその都度)活発に意見交換をおこない合意を図っている。年2回は個人面接もおこない個々の思いを聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯、家族との話し合いがある場合や、ターミナル時は人員を増やし、状況の変化に合わせている。デイサービス、小規模、グループホーム間で勤務の助っ人を頼んだりしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が離職した場合は、各事業所から、家族や利用者の馴染みの職員の移動を行い、対応を不安にさせないようにしている。普段から勤務に各事業所に行くこともあり、利用者のダメージを少なくしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員へは各スタッフが研修内容に応じ指導している。指導することで各自の研修にもつながっている。また、研修の報告会や話し合いを月1回の勉強会にておこなっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を合同で行ったり、他施設を見学したり、勉強してきたことを報告し、全員に共有している。GH委員会の参加をし、他地区の同業者の状況を知ったり、研修会に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回職員全員での食事会や年2回の個人面談にて話を聞いている。柔軟に対応での話し合いを心がけている。	○ 短時間であっても心身を休める時間の確保や配慮を職員の声を聞きながら行っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の能力を見極め、取組に向上心を持ってもらい意見の反映を図っている。努力や実績は職員全員で確認している。さらに人事考課の評価の取り入れもおこなっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅サービスの窓口があり、ケアマネが訪問し相談を受け、施設長へ報告が入り、一緒に相談を受け信頼関係ができていく。他の職員に関しても、身近で困っている高齢者への関心を強めるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設に見学に来られた時には、家族が気がかりなことや、意見、希望を気軽に相談できるように、声かけを積極的におこなっている。管理者、ケアマネがアセスメントを丁寧に聞き、受け止めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的問題は園長、ホーム長、ケアマネジャー、看護師を含め対応している。同一事業所内の居宅支援事業所との連携をとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	連携しているディサービス、小規模多機能の方の入所が多い為、グループホームとの関わりを多く持っている。新規の方に対しては体験入所を試みるよう考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個別の能力を活かした家事等に参加して頂いている。利用者との関係については、年輩の職員が間に入り仲介をとっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	園内の行事では家族に声をかけ、一緒に調理等を手伝ってもらい家庭的な雰囲気づくりに努めている。(納涼祭、ふれあい祭り等)	○	今後も継続していく必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会、園内行事、面会時等に家族へは現在の状況を報告し問題がある場合は家族と相談するよう努めている。	○	家族の要望をもっと聞き出す努力が必要である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へのドライブ、ディサービス利用の知人の面会、交流の支援に努めている。地域のお寺のお参りや、お坊さんの法話を聞く等おこなっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り、一人ひとりが孤立しないよう声をかけ関係づくりに努めている。食卓テーブルに座る機会が多いので、席順を利用者さん同志の関係を良くする為、並べ換えを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ターミナルにて退所された方、死亡された方、病院へ行かれた時初盆参りや面会を行っている。	○	今後も初盆参りは継続して取り組んでいきたい。また年賀状を送る事を検討していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に以前の生活ぶり、好み等を聞き一人ひとりに個別の対応を行うよう努めている。	○	家族等に以前の様子を聞けるような関わりをしていく必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時、行事への参加の際、家族、親類、知人、地域の方々に話を聞くよう努めている。また知り得た情報として記録に残している。	○	面会が少ない家族に対してもっと関わっていく必要がある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別のケース記録により把握出来るようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望、アセスメント、計画、評価を行い利用者本位の計画作成に努めている。また家族にはその都度、報告を行っている。	○	家族を含めてカンファレンスを行っていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎に評価をし、見直しを行っている。状態変化の場合その都度新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状態はパソコンに入力し、ケアプランに沿ったチェック表の記録を行っている。また情報が共有できるよう閲覧可能にしている。	○	実践や介護計画に活かせるような記録をしていく必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの利用者の状況、要望により、入浴をディサービスの浴槽を利用したり、食事は個人の状態に合わせた形態にしたり、家事手伝いにより、生きがいを持ってもらう等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、地域のボランティアの協力を得る事が出来ている。警察、消防との連絡体制の確立は出来ている。同法人の他事業所の活動や地域の文化祭への参加を行い地域の方々との交流も深めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所内でほとんど間に合っている状態ではあるが、他の地域の事業所のイベントにも参加している。福祉用具の購入時等は他のケアマネジャーへの相談も行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所以前の状況を知るうえで地域包括支援センターとの相談、情報交換を行い協力を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関にかかりつけ医として協力体制を得ている。またターミナル期の利用者は、24時間体制で連絡を設けた医療機関もある。	○	常時夜勤帯で対応できる医療機関の確保が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の精神科や内科で担当医を設け、診断、治療を受けられるよう支援している又、スタッフも相談できるような関係を築いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフが地域の看護師に相談、助言を受けながら日常の健康管理を行っている。デイ、小規模、在宅の看護師に相談、助言を受けやすい環境にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当施設長、ホーム長、看護師、関連医療機関との情報交換、相談を有事に早期対応し退院後についての話し合いまで家族も含め納得いくような形となるよう努めていくようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	等園管理者、医療機関、家族が早い段階で終末期について話し合っただけで今後の方針を決めている。その後スタッフ全員が終末期について勉強し、話し合いの場を持っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間対応できる医療機関があり今後予測できるであろう病状について検討し準備を行うよう努力している。又、出来る事、出来ない事を家族に説明し、理解していただき協力を得ている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まず施設スタッフが事前に訪問し環境等について話し合いを持つようにしている。新規入居の方には体験入居を試みたりしております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	朝10時のお茶の時間に日程の説明をし協力と参加をお願いする。出来るだけ希望をとって支援をしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、それに対して誘導を行い排泄チェック表に記録し紙パンツ、パット類の節約にも反映している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否が無い方は業務の都合午後から入浴して頂いている。入浴拒否がある方はタイミングを見て入浴して頂いている。また広い風呂を好まれる利用者さんには隣接しているデイサービスにて入浴して頂いている。	○	自分の意思を言える利用者さんには今後聞いていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人その人に応じた休息の仕方をして頂いている。入眠は自分で出来る方は自分の意思にて入眠して頂いている。自分で出来ない方は時間を決めて誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、炊事、買い物、畑、草取り等役割を持って取り組んでもらっている。意思疎通の出来ない利用者さんに対しては散歩等を実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の理解が出来る利用者さんには職員の介助により買い物をして頂いている。理解が出来ない利用者さんに対しては職員が管理している。	○	理解出来ない利用者さんには店内を一緒に廻って頂き買物の雰囲気味わって頂いている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接しているデイサービスや小規模多機能へ行き音楽リハビリやカラオケ等に参加して頂いたり、また日々の買い物やドライブに参加して頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気候の良い時には弁当を持って行き外で食べて頂いている。また家族の希望により家族と共に外出や外泊をして頂いている。お寺参拝、墓参り等も行っている。	○	利用者さんが行きたい場所を利用者さん本人または家族から聞き出し、利用者さんが行きたい場所に出掛ける機会をもう少し増やして行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くに住んである家族の方より荷物が送られて来た時など、お礼の電話を掛け本人と変わり話しをして頂いている。また、年賀状書き、絵手紙を趣味活動に取り入れ送っている。	○	面会になかなか来れない家族の方などには、関わる機会を多く取り入れて行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どこでも遠慮なく本人と会話ができる環境作りを行い、笑顔で迎え居心地良く過ごせる様に心掛けている。また、家族と会話をする事を職員が意識し接する事で信頼関係を深めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていない。一人一人の精神的弊害を理解し、必ず見守りを行いながら、本人の希望に合わせ好きなこと、したいことをしてもらっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は自室の鍵を閉めて休まれる方はおられるが、日中は鍵は閉めず、自室、ベランダ等に自由に出入り出来る様にしている。外へ出られた場合は否定せず、声掛けを行いながら付き添い散歩を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者3名につき1人の職員の担当を決め身体の変化、居場所の把握をし、常に見守りを行っている。また、夜間1人で介助が困難な場合は宿直者に協力を求め、安全に気を付けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	理解力のある方には包丁やハサミを使って作業をして頂くが、理解力の無い方の前にはなるべく置かない様にしている。作業後は必ず元の位置に戻している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年内に防火訓練、リスクマネジメント研修を行い、スタッフの知識向上を目指している。また、事故が起きた場合には事故報告書、ヒヤリハットを提出し、対策を全職員で話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年は園全体の勉強会で救急救命士にて講義や訓練を行ったが今年はまだ実施していない。マニュアルは作成している。	○	年に一度訓練が出来るよう取り組んでいきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難、消防訓練を消防署のもと行うよう計画し実施して色々な指導を受けている。	○	避難、消防訓練の際、地域の方々に参加して頂けるよう声かけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人、ひとりの起こりうるリスクを考え、家族に説明、理解して頂き拘束のない生活支援が出来るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝必ずバイタルチェックを行っている。毎日の生活の中で一人ひとりの体調や精神面の変化、異変に気づくよう目を配らせている。異変に気づいたら看護師や管理者に伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬、誤薬防止の為、薬袋を朝、昼、夕、眠前と色分けし薬袋に氏名、用法、作用を記載し全員が把握できるようにしている。又、与薬時の名前の確認と服薬介助行うよう心がけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	夕食に玄米を提供したり、ヨーグルトや健康茶、繊維の多く含まれる食品を食事に取り入れるよう工夫している。又、適度な運動や排便のタイミングを逃さず、誘導するよう努力している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後歯磨きを促している。(自立者) 支援が必要な方には義歯の洗浄やうがいの介助を行って清潔保持に努めている。	○	殺菌効果のある緑茶でのうがいを取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日作った献立を朝、昼、夕と給食日誌に記録しているのでそれを見て、重複しないよう、季節物を使用して、一人一人の盛り付け、きざみ、形あるもの、ミキサー食とその人に合わせた支援をしている。水分摂取は一回では無理な方は時間をずらして摂ってもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、インフルエンザ、肺炎の予防接種をされるよう指導している。園内ではリナバス液を使用し食前、面会者、外出者に実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ほとんど毎日買い物はし、調理用具は毎日調理する前に消毒し調理にかかる。調理が終了後は必ずフキンは洗浄し消毒液につけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出勤時に玄関の掃除、水まき、ガラス戸の拭き掃除を行い、清掃に心がけている。	○	季節の花を植え、皆で水やり等を行っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間、いつ誰がその場所に行っても汚れていないように常に心がけて片付け掃除をしている。場所によっては花一輪を飾り、安らぎの空間を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の利用者を見て各居室で過ごしてもらおうか、フロアが良いかその日、その時、あった場所に誘導している。畳のスペースとソファのコーナー、備え付けの腰掛けコーナーが三か所ある。	○	昼間はなるべく各居室の戸を開けていてあげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってかけがえのない物や馴染みのある道具を持ち込まれ、利用者に安らげる様、配慮している。必要な物は家族に協力して頂き、持って来てもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日の流れの中で空気の入替えを積極的に行っている。個々の部屋、フロアには室温計が設置されており、一人一人の体調、好む温度を確認しながら調節を行っている。	○	部屋を閉め切っている利用者の方には、毎朝、呼びかけを行い、毎日の習慣にしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は車イス等が通る余裕があり、手すりや座れるスペースが設置されている。浴槽、トイレ、台所等、利用者の使いやすい高さ調節が出来ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、風呂場、自室、洗面所等の表示をし、出来る事は自分でしてもらう様になっている。(掃除、入浴、排泄など)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日にはベランダへ出て洗濯干しやお茶を飲んだり、歌を歌うなどのレクリエーションを行い、また季節に応じて、花植えや畑作業を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・デイサービスと小規模多機能とは通路を設けているので、自由に介護者と共に出入りされている。外にでてある方があればデイ職員、小規模職員が気づき、異常があればホームに報告が入る等の共有状況が作られている。
- ・デイサービスの音楽療法、ゲーム等の参加、ボランティア活動見学、園児との交流、小規模多機能でのカラオケ大会（毎週水曜日）に参加させてもらい、利用者の楽しみも多く職員もレベル向上のアイデアをもらってきている。
- ・同部落の利用者さんが五名居られるので家族同士も親密さがあり、一緒に面会に来られ、食事作りを手伝ったり指導もされていかれる。その姿を見ている利用者さんの笑顔を見受ける事もある。
- ・園児との交流、田舎道の散歩、地域の行事参加（クリーンデイ）、収穫は少ないが畑作り等を自然に実施できる環境である。